

シグマ委員会
5年度第2回運営委員会議事録(案)

日時： 1993年6月10日(木) 13:30~17:30

場所： 日本原子力研究所本部 第5会議室

出席者： 中嶋(法大、主査)、北沢(東工大)、瑞慶覧(日立)、吉田(東芝)、
若林(動燃)、吉田、菊池、長谷川、前川(以上原研)

幹事： 中川、中島(原研)

オブザーバー： 更田(NEDAC)、松延、山野(以上住友原工)、岡本(原産)、
岸田(CRC)、川合(東芝)

配布資料

1. 平成5年度第1回運営委員会議事録(案)
2. 諮問・調整委員会会合議事録
3. 原子力学会誌シグマ委員会2年報の構成について
4. ロシアの研究機関への委託研究の仕様書
5. 核データ研究会実行委員会第1回会合議事録
6. 平成5年度シグマ特別専門/研究委員会議題(案)
7. Think tank meeting on a strategic view on nuclear data needs

議 事

I. 議事録確認

1. 前回4月23日の議事録(配布資料1)を確認した。

II. 報告事項

1. 諮問・調整委員会報告

5月21日に開催された諮問・調整委員会会合について、配布資料2により長谷川氏が概要を次の通り述べた。高エネルギー核データ関連のシグマ委員会中期展望(水本)、米国における核データ活動の現状分析(菊池)、将来(~10年)の原子力界の動向と核データ(大竹)、5~10年後の原子力界の状況と核データの位置づけ(神田)、将来の原子力界の動向と核データ(中沢)、核データの利用の促進と標準化(吉田)、将来の原子力界の動向と核データ(長谷川)、将来(~10年)の計算機関連技術の動向(長谷川)についてそれぞれ報告があり、議論をした。

2. NEAシンクタンク会合報告

5月27日パリで開かれたNEAシンクタンク会合について更田氏が概要を次の通り報告した。今回の会合は出席者から意見を聞くだけで、後で事務局が意見をまとめそれを事務局長見解として出すとのことである。各国とも核データ研究活動が低下しているとの報告があった。英国Harwell研究所が民営化され資金稼ぎをしていることに関連して、商業活動からのインパクトを受けて仕事をする必要があるとの英国代表の意見に対して、ベルギ

一代表は核データ関係の仕事は長期的な観点で考えなくてはならず、商業ベースにはのらないことを主張し、日本としてもこれをサポートした。LAMPF（米国、LLNL）はシャットダウンの予定である。ORELA（米国、ORNL）では職員の給与だけは保障されているので、運転費を産業界から得る努力をしているとのことである。核データ研究活動の中期計画を作成する必要があることを指摘した。

3. 委員会旅費について

中島氏が今年度の旅費の使用状況を次の通り報告した。5月末現在で30%消化し多少多めであるが、年度始めで会合が集中したため1年にならせば予算内に納まる筈である。予算を増やすよういろいろ努力をしているが、現在のところ増えていないので今のところ各WG年2回の会合のペースでやるしかない。

4. シグマ委員会2年報について

シグマ委員会2年報の構成について山野氏が配布資料3により説明した。JENDL-3.2の改訂作業のうちの(1)重核データと(2)中重核は菊池氏が執筆担当になっていたが中川氏に変更した。その他は原案通り承認された。

5. ロシアとの協力について

菊池氏が配布資料4によりロシアの研究機関への核データの測定・評価の委託と国際科学技術センター（ISTC）を通じた協力研究について概略次の通り報告した。科学技術庁の特別会計でロシアの研究機関へ次の通り核データ、炉物理データなどの測定と評価を委託する予定であるが、協定が締結されていないので、契約はまだ出来ていない。今月下旬に菊池氏と契約関係者でこれらの研究機関を訪問して契約の下打ち合わせをする予定である。

理論・実験物理研究所 タングステンの0.8、1.0、1.2 GeVでの核破砕実験

物理・動力研究所 アクチナイドの核データと炉物理データ（積分データ）の測定と解析

クローピン・ラジウム研究所 アクチナイドの核分裂スペクトルの測定

またこれとは別にモスクワにある国際科学技術センターを通して放射線物理・化学研究所（ベラルース）、クルチャトフ原子力研究所などから協力研究の申込みがある。

6. 原研核データセンターの来年度予算について

菊池氏が原研核データセンターの来年度の概算要求額が今年度の半分になったことを報告し、来年度は大学への核データの測定委託が大幅に減る見通しであると述べた。

7. IAEA会合について

菊池氏がIAEA主催で今年11月8～12日に「評価済核融合核データライブラリー（FENDL）に関する専門家会議」（参加者：30～40名）、15～17日に「放射化断面積の測定技術に関する専門家会議」（参加者：～10名）が原研東海研で開かれる予定であると報告した。

Ⅲ. 審議事項

1. 1993年核データ研究会について

川合氏が配布資料5に基づいて1993年核データ研究会のプログラム(案)を説明した。これに対して、中性子ハロー原子核の熱中性子捕獲反応の計算(東大、大塚)、原子核におけるカオス現象の探索(九大、的場)、JENDL放射化断面積ファイルの作成と積分テスト(原研、池田)などが提案されたが、最終決定は次回実行委員会ですることとなった。またパネル討論については一部異論もあったが行うことになった。パネリストとしては一部変更、追加の提案があった。また何らかの結論がえられるように実行委員ならびに座長で方策を練るようとの注文があった。

2. 本委員会について

中島氏から配布資料6に基づいて平成5年度の本委員会の議題について提案があった。討論の結果今回は時間が短くなったので、国内研究機関の核データ活動は資料の配布のみとし、説明は省略することにした。特別講演としてJENDL-3.2の完成(中川(原研))を追加することにした。

3. 日本原子力学会企画委員および「(核データ・炉物理)合同特別会合」の議題について

核データ関係からの学会の企画委員がいなくなったので、関氏(MAPI)に今後シグマ委員会と学会とのチャンネルをお願いすることとし、運営委員会にも出席してもらうことにした。関氏、正本氏、企画委員長に打診し、主査名で依頼状を出すことにした。

合同特別会合の議題として、JENDL-3.2の完成(菊池(原研))、 β_{rel} の測定(山根(名大)、小林(京大))、核融合ブランケット中性子工学に関する日米協力の成果(前川(原研))が提案された。北沢氏、関氏と事務局で相談して決定することにした。

Ⅳ. その他

次回は9月9日(木)とする。

従来のオブザーバーに加え関氏(MAPI)に出席を依頼する。

岡本氏が測定用のサンプルとターゲットに関するワーキンググループを来年度に作ることを提案した。

宿題事項

担 当	宿 題 事 項	期 限
北沢、事務局	関氏にシグマ委員会と学会のチャンネルになってもらうよう依頼する。	早 急
北沢、関、事務局	日本原子力学会秋の大会「(核データ・炉物理)合同特別会合」の議題を決定し、学会に連絡する。	早 急
事務局	「National Nuclear Data Needs of the 1990's」と「Strategic View on Nuclear Data Needs」の	早 急

コピーを運営委員に配布する。
